

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興課
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第6回文化振興審議会		
開催日時	令和8年3月26日(木) 13:30～15:00		
開催場所	嬉野市役所 塩田庁舎 3-1 会議室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	杉谷委員、古賀委員、秋吉委員、森委員、 筒井委員、高島委員、井上委員	
	事務局	文化・スポーツ振興課長、副課長、主事 各1名	
	その他	【受託業者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 トータルアドバイザー、まちづくりプランナー 各1名	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	・ 会議次第 ・ 計画素案 ・ 成果指標抜粋資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興
議 題	嬉野市文化振興計画について		
内 容	パブリックコメント報告		
審議経過	事務局	2月27日～3月16日実施し意見は0件であった。	
内容	成果指標についての確認		
審議経過	事務局	配布資料を説明	
	委員	異議なし	
内容	ワークショップ（基本理念・基本方針について）		
審議経過	事務局	【成果指標資料】について説明 （1）基本目標1 文化の魅力を再発見する——文化を知る について うれしの元気通信投稿数（文化関連）は記者の裁量によって投稿数が決まる。また、嬉野市からの情報発信件数については事務局によってアナログ的に数を数えた。	
	委員	SNSをされている方はいらっしゃるか。 （若干名挙手）	
	委員	公の広報であると思うが、若い人たちから見てもらえる発信をしてほしい。調べ方なども違ってくると思う。	

		文化というハッシュタグなどで投稿する方はいないと思う。お祭りやイベントという投稿で終始していくのではないかと思う。文化というところごくおこがましい感じがしている。 伝統芸能もしかり、おくんちなどと表現して発信がされると考える。発信一つでもいろんな言葉を散りばめて発信をすることが重要と考える。
	事務局	文化という情報を拾うために検索をした。今後はキーワードハッシュタグを決めて発信してもらうことが重要と思う。
	委員	文化連盟においては今後常任理事として30歳の方が担当される。ゆるキャラなども作成しており、SNSなど情報発信を強めていきたい。若い方に対して情報発信が届くようにと考えている。
	委員	嬉野市の文化連盟で提案していることは文化連盟嬉野支部でアカウントをメンバーで共有して投稿するようにしている。手軽に投稿できるという認識を深めていくことが重要であり、自身の活動を積極的に発信してもらうようにしている。 嬉野市の文化振興として発信するのであればハッシュタグにするべき。
	委員	高齢者はスマホを使いこなせない。情報を見たい、聞きたいと思っても使いこなせない。いろんな世代に届くようにしないといけない。回覧、有線なども使って発信していかないといけない。
	事務局	市役所が文化連盟の方が行うことではなく、いろんな方々がハッシュタグを活用して発信をしないといけない。
	委員	指標を右肩上がりとするには仕込みとして講座や研修を行わないといけない。
	委員	高齢者でもスマホが扱えるようにしないといけない。
	委員	一つ共通の課題ができた。
	事務局	指標の1番目から3番目からは担当課としても力を入れて、市民の方々が活用できるような発信方法を検討していきたい。
	委員	スマホの簡単な説明会を行うことが重要と思う。
	事務局	公民館教室なども含めて進めていきたい。

委員	うれしの元気通信については見ることはありいいねを行うが、閲覧数も集計できるのか。
事務局	ある程度はつかめる。
委員	塩田津に来られる方は非常に SNS を通じて訪問が多い。 文化という領域にしていくとなんでも文化ととらえられてしまうので、グレーゾーンのカウントも発生すると感じる。皆様に文化とを感じる投稿も必要性もあると考える。
委員	元気通信の閲覧数は集計できないのか。 インスタ、ホームページ、Facebook も行っているが指標についてはどこから拾っているのか。
事務局	Facebook から拾っている。
委員	投稿していく中で分野分けしてリスト化するのはどうか。
事務局	投稿者はリスト化を年間通して行っていて集計をしている。 指標の現状値の斜体は暫定である。 嬉野市文化連盟加盟団体は40数団体ある。市と元気通信の発信をうまくリンクして流れを作ることが重要。
委員	YouTube、ショート動画などタイパ、コスパ重視の時代であり、量より質の要素が高くなっている。トータルの閲覧数ではなく、1件の投稿に対しての閲覧数が上昇することがよい流れと思う。
委員	投稿数が14件ととても低いので、そもそもの件数を上げることが重要と思う。
委員	4年後の12年度の想定をすると1年ずつの検証が重要と思う。
委員	質を上げることは重要であるが、まずは投稿ができることや投稿できる方が増えることが重要と思う。UI 商事が嬉野市の中で上手な発信をしている。
事務局	うれしの元気通信に限定せず、SNS での投稿件数や、拡散数を指標としていく設定にしたい。 うれしの元気通信の投稿数は削除としたい。

委員	そもそも文化連盟の関連団体の方々が発信していないと拡散等には至らないと考える。 （２）基本目標２ 文化との出会いを創出する——文化に触れる
委員	リバティ 文化ホール利用件数はホールの利用客ということか。
事務局	その通りである。
委員	以前、ユースポで終活の映画上映会をしたが４００名ほど来場があった。それも立派な文化であると考えられる。
委員	文化ホール利用件数については１,３６５件とあるが、多いのではないか。
事務局	リハーサル室の利用件数も含めている。
委員	ホールは４００人収容であるが、１回あたりに換算すると５０名のみの参加ということか。
事務局	そのような感覚である。
委員	市内での文化イベント開催件数はどういうことか。
事務局	資料２枚目冒頭にあるが、各施設を対象としてイベント来場者、利用者を含めている。
委員	現状維持の指標としては市内での文化イベント開催件数、市内文化連盟団体数・人数となっている。
委員	武雄市と佐賀市にてこども劇場をされている。市子連においてこども劇場を行っていたが、徐々に参加者が少なくなっている。 来年度はファミリージャズを企画している。子供達に見せたいが、来られる方が限られているので小学校などに出向いていきたい。学校の存在は大きい。 現在、お茶体験を小学校６年生にお寺で行っている。
委員	文化の方針に関わることでとても重要と思う。子供達に伝承していかないといけない。
事務局	文化連盟は現状維持ということでよいか。

	委員	よい。
	委員	市内文化連盟団体数・人数については誤差率を 5%ほど見ていた方が良いのでは
	事務局	人口減少の中で維持が難しい状況かと思う。数字だけを伸ばすのではなく、事業に対する成果が上向きか、現状維持かなどを総合的に判断したい。
	委員	目標値とあるが定量でなく、定性的に判断するということで理解した。
	事務局	何パーセントで伸びていくかなどの表記は難しい。 高齢化してメンバーが辞められる団体もある。
	委員	誤差率は人口減少の中で分母が減っていく中で現状維持の許容範囲のパーセンテージが 5%ということでも良いのではないか。
	委員	毎年度考え方は示していった方が良い。
	委員	ガイドは年配者が多い。若い方をガイドとして捕まえておいた方が良い。来られなくてもメンバーに入れて伝えておくことが重要である。紙漉きについては実際に漉けるかたは 4 名である。小学校、支援学校の生徒が体験で来るが指導できない。ハガキ、卒業証書を漉ける方はいるが、紙をきれいな漉ける方はいない。どこの組織も高齢化している。次を見据えてどういう風につなげていくかが重要である。誰でも関心を持って参加できるときに参加できるようにしていくことが重要と考える。
	委員	（３）基本目標３ 共に創る文化のまちづくり——文化でつなげる 外部団体等の補助金は佐賀みらい創造基金や金子財団や日本財団の補助金か。
	事務局	その通りである。 補助金の案内先に困ることが多いので、広く周知していくことが重要と考える。
	委員	補助金については財団等によって申請の細かさが異なっている。
	委員	佐賀アシストみらい事業補助金なども活用を想定して 20 周年の記念誌を作成予定である。

	事務局	伝承芸能の活動支援状況の指標について市は増やすことを検討しているのか。
	委員	増やすことは難しい。
	委員	伝承芸能の活動支援状況は高齢化により、やむを得ず辞められる地区が年々増えてくるのではないかと考える。
	委員	助成金についての案内の突破口は市のホームページサイト開設していくことが重要と思う。民生委員児童委員の取り組みも同様に行っている。
	委員	6 件の指標それぞれ右肩上がりにすべきではないか。
	委員	小学校での伝承芸能鑑賞・体験会の実績については右肩上がりが難しいと考える。学校現場の時間確保が難しい。特に中学校の現場は特に難しい。
	委員	塩田中学校においては文化祭がなくなっている。教員の忙しさもあり、時間が取れない。
	委員	小学校での伝承芸能鑑賞・体験会の実績の増加については基本的に平日での実施の依頼が団体に来るため、実施が難しい。現役世代は仕事をしているため。
	委員	小学校での伝承芸能鑑賞・体験会についての目標は現状維持としたい。
	委員	東島委員：
内容	令和 8 年度事業について	
審議経過	事務局	委嘱期間を 1 年延長 年間 3 回程度の審議会を予定している。 以上
その他		